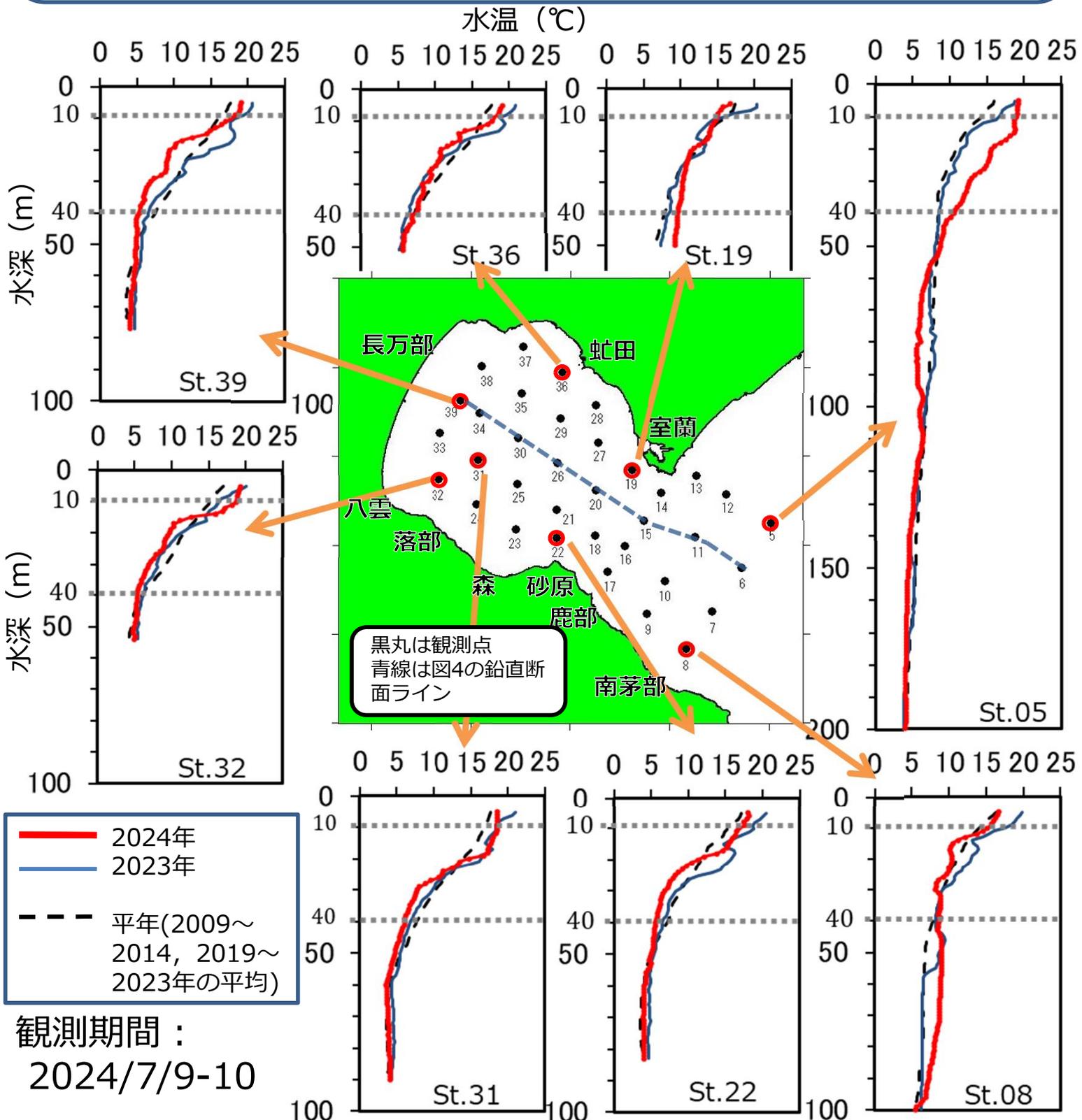


2024年7月9日～10日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素・流向流速の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

調査海域の10m以浅の水温はおおむね平年並で、前年と比べてやや低くなっていました。一方で湾内の深度10~40mの水温は渡島寄り (St.39, 32, 22) で平年よりやや低くなっています。また、湾外の胆振側 (St.05) では平年より3~6℃程度高くなっています。



【水平分布：水温，塩分，流向流速】

噴火湾内の表層では時計回りの渦が形成されています（図2A）。深度10mの水温は湾内中央付近では18℃台であったものの，湾口部の鹿部沖で10℃未満の地点があり，最大9℃以上の差がありました（図2B）。深度10mの塩分は湾中央部は32.4以下ですが，湾外の胆振側では33以上となっています（図2C）。

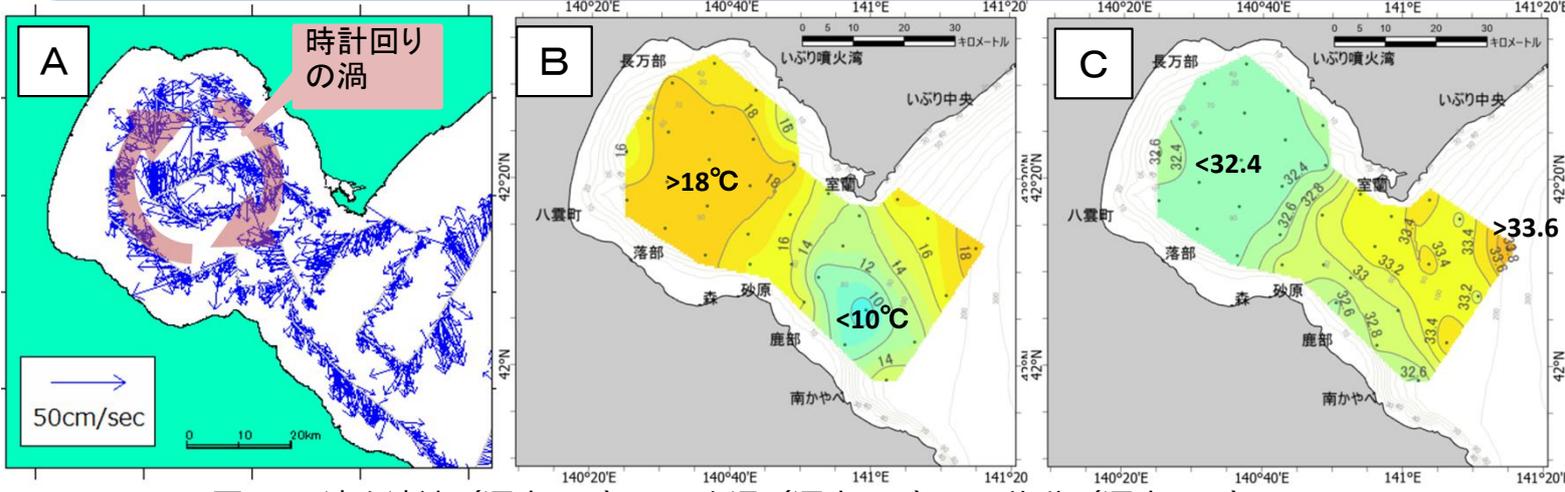


図2 A:流向流速（深度13m），B:水温（深度10m），C:塩分（深度10m）

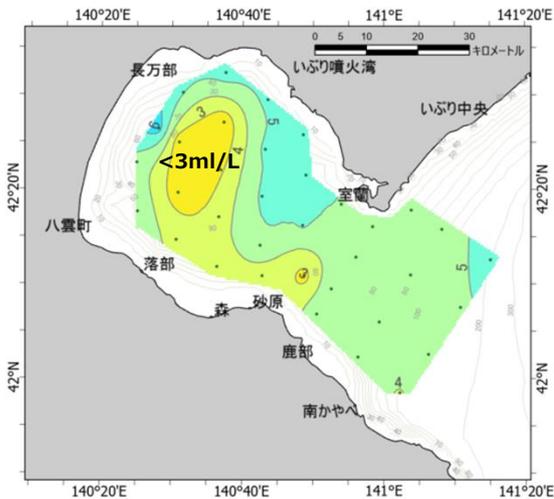


図3 溶存酸素の分布（海底上5m）

【溶存酸素の分布】

海底上5mの溶存酸素量は2.2～6.4ml/Lで，2024年6月（3.9～6.0ml/L）に見られなかった貧酸素水（3.0ml/L以下）が湾央～湾奥に分布していました（図3）。一方，2023年7月（1.4～6.0ml/L）と比べると溶存酸素量はやや高くなっています。

【水温，塩分の鉛直断面分布】

噴火湾内の表層は水温16℃以上となっていますが，例年見られる夏季噴火湾表層水※（水温18℃以上，塩分32.0以下）はほとんどみられません。一方，津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）は湾口～湾外の深度20m以深に分布しています（図4）。

※河川水の流入と大気からの加熱により高温低塩分化した表層の水塊

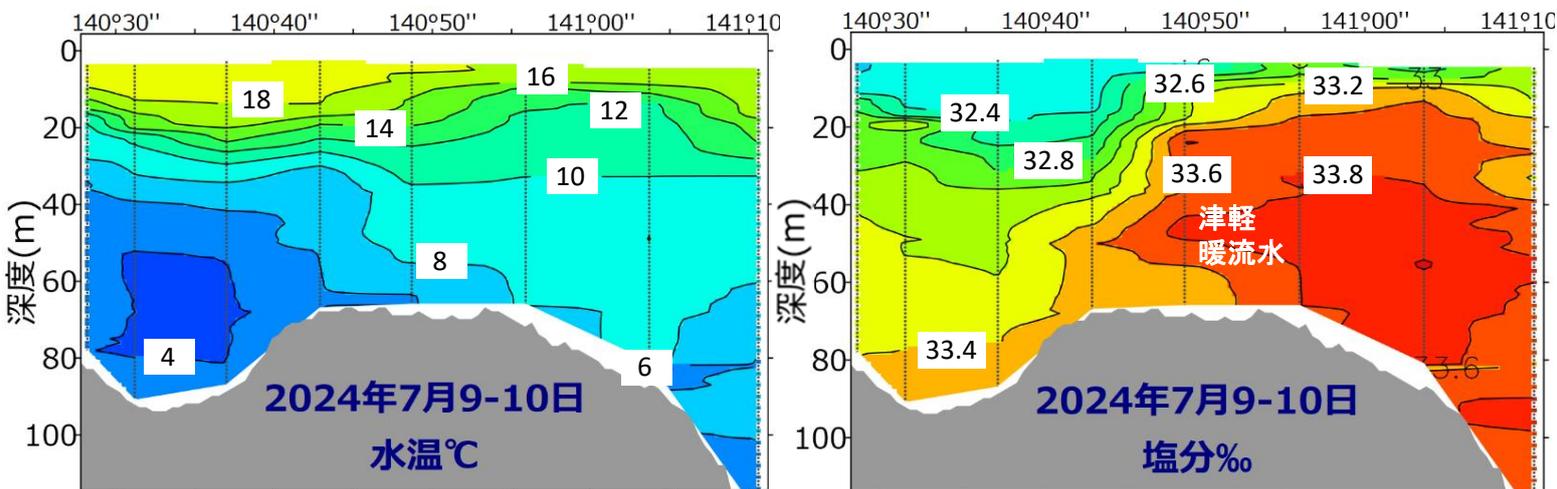


図4 水温・塩分の鉛直断面図（図中破線は観測点）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照